



THE SERVICE CLUB OF THE YMCA  
 AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S  
**The Y's Men's Club of Kanazawa**  
 CHARTERED JULY 9, 1947  
 c/o KANAZAWA YMCA 44-1-202 SATOMI-CHO KANAZAWA 920-0998

国際会長主題	「世を照らす光となろう」	“Be the Light of World”
アジア地域会長主題	「歳月はY'sをワイズ(賢者)にする」	“Years Bring Wisdom”
西日本区理事主題	「先頭にたつてワイズの光を輝かそう クラブで、地域で、国際社会で」 “Let's Y'smen Light Shine before Others, in the Club, in the Community, in the World”	
中部部長主題	「前へ！声を掛け合い1」	“Go forward! Call Together”
金沢クラブ会長主題	「より楽しく・より豊かに 伝えようワイズワールド」	

## 2012 9 月間強調 Menettes

### 今月の聖句

定められた時のためにもうひとつの幻があるからだ。  
 それは終わりの時に向かって急ぐ。人を欺くことはない。  
 たとえ、遅くなっても、待っておれ。それは必ず来る、遅れる事は無い。  
 ハバクク書2章3節

### 9月強調月間

各クラブ会員は例会にメネットを誘いましょう。Have Fun With Menettes(メネットと共に楽しく)  
 野村靖子メネット事業主任(名古屋東海クラブ)

### 9月例会プログラム

とき	2012年9月20日(Thu.) 18:30~20:30
ところ	金沢ニューグランドホテル
会費	¥3,000(会員不要) ¥2,000(メネット)
開会・点鐘	司会 山本典子メネット 数澤メネット会長
主 題	司 会 者
ワイズ・ソング	一 同
今月の聖句	司 会 者
ハッピー・ハーステイ	幸正一誠会長
ゲスト紹介	山本典子メネット
食前の感謝	澁谷節子メネット
スピーチ	「古九谷誕生秘話」 中矢進一氏
委員会報告	各 委 員
ニコニコタイム	山内ミハルメネット
YMCAの歌	一 同
閉会・点鐘	数澤メネット会長

### 8月クラブ活動状況

<b>第1例会</b> (8月16日 Thu.)	
メ ン :	伊藤、影山、数澤、高口、幸正、澁谷、西尾、山本 (8名)
出席率 :	89 %
メネット :	伊藤、数澤、高口、澁谷、山本 (5名)
コメント :	なし
ゲ ス ト :	平口哲夫氏
<b>第2例会</b> (8月1日 Wed.)	
メ ン :	伊藤、数澤、幸正、澁谷、山内 (5名)
メネット :	数澤、山内 (2名)
<b>ニコニコタイム</b>	12,000円
クラブファン ド 累計	168,100円
<b>B F ポイント切手</b>	0 kg 累計
0 kg	
現金	0円 累計 0円

会 長	幸正一誠	書 記	山内健司
副会長	澁谷洋太郎	会 計	高口昇
前会長	数澤輝夫	メネット会長	数澤淑子

第一例会：毎月第三木曜日 18:30~20:30  
 金沢ニューグランドホテル Tel(076)233-1311  
 第二例会：毎月1日 18:30~20:00  
 金沢ニューグランドホテル 2F (トレド)

## 二匹の蛙の寓話より

数澤 輝夫

クリーム壺に落ちた二匹の蛙という有名な昔の寓話を覚えていますか？

クリームの上から壺の口までは、かなりへだたっていました。二匹の蛙は外へ出ようとして跳びました。だがうまくゆきませんでした。蛙たちはもがき、汗を流しそして苛立ちました。出来ることなら何でもやりました。でも成功しないのです。しまいには、一匹の蛙は消極的な態度をとるようになりました。そして敗北的な考え方にとりつかれはじめ、役に立たぬ自分の行動を苦々しく考え出したのです。その蛙は悲観論者になったのでした。蛙は自分に問いを投げかけました。

「クリームの上からは出られっこないんだ。それなのになぜ俺は身をすりへらして出ようとするのだろう？俺はどっちみち死ぬのだ、だのにどうしてそれを認めないのだ？なぜ静かに死なないのか？」と。その蛙は絶望とあきらめのうちに、クリームの中に沈んでいき、死にました。その蛙の墓にはたぶん「彼は劣等感のために死せり」と書き記されることでしょう。もう一匹の蛙は、もっとしっかりした性質の蛙でした。前の蛙とは鍛錬も経歴も違っていました。明らかに豪胆な蛙の血をひいていたのです。その蛙は積極的な考え方をする蛙でした。その蛙は自分に言い聞かせました。「よし俺は死ぬかもしれない、だとしたら堂々と死んでやるぞ。だが蛙力のあらんかぎり最後まで戦い抜くべきだ。たとえ最後まで戦えなくなっても、昔の勇敢な蛙の光輝ある伝統に恥じぬ死に方をすべきだ」と。こうして、この蛙は自分の全精力をもって立ち向かったのでした。まわりをぐるぐると泳いだり、のたうちまわったり、クリームを叩いたりして大騒ぎを起こしました。そのために、やがて足元が固まってゆくを感じはじめました。蛙の大活躍はクリームをバターに作り変えてしまったのです。最後に足をピストンのように激しくたたいて、収縮させました。そして壺から勝ち誇ってカ一杯跳び出したのです。この壺の中のクリームは、その時すっかり固まったバターに変わってしまっていたのでした。この二匹の蛙の寓話をみなさんはどの様にお読みになりましたか？

### 中矢進一氏 プロフィール

1955年 大阪生まれ

両親が石川県出身

現在 加賀市教育委員会事務局次長

石川県九谷焼美術館副館長

## 【8月例会報告】

今月の例会は、新会長の提案で納涼例会とすることに決まっておりましたが、聖句の説明の所で会長より「去る7月31日(火)山谷澄メンが急逝されましたので少し予定を変更して進めたい。金沢クラブにとって多大な功績のあった方で、敬虔なクリスチャンでもあり非常に残念です。ブリテンの今月の聖句は山谷澄メンが愛読していた箇所を載せました。山谷澄メンを偲び、祈りの一刻を山谷澄メンと長い間YMC Aやワイズの活動を一緒にしてきた一人である数沢輝夫メンにお願



いしたい。」との報告がありました。数沢輝夫メンは、彼の人となりや数々の功績等を踏まえて詳しく祈られまた、「この例会におられなくなったことは大変残念ですが、山谷澄メンの働きを無にしないよう私共は今まで以上にクラブ発展のために尽くしていきたい。」と祈りの中に加えられました。

各種委員会報告は、8月25日(土)びわこ部会・26日(日)中部部会の出欠・交通手段の確認・仙台広瀬川クラブとのDBCを前向きに検討している経過報告・9月はメネット強調月間なのでメネット会で例会を行う等報告がありました。

ゲストとして金沢犀川クラブの平口哲夫メンが出席され、「前期から話しがあったDBCについて、「川」の字がつくクラブを考えているのでもう少し時間を掛けて検討したい。次期部長に金沢犀川クラブから平口が予定されているので金沢地区として金沢クラブの協力をお願いしたい。」などの話しがありました。会長からは了解した旨の返事があり時間も大分経過したので、閉会点鐘もそこそこに金沢クラブ豪華客船の船長



はヨーソロと操舵室長に号令をかけ納涼巷(金沢ニューグランドホテル3階パラッツ)に向かいました。例会の直ぐ後でこのような会合を持ったことは余り覚えがありませんが、とにかく飲んで騒いで食べて大変賑やかでした。



船長が率先垂範して船員に語りかけ、それに負けじと答えるのでホテルの従業員も吃驚していました。閉会時間までガッツリと過ごし、とにかくより一層の交流ができ楽しい一時を過ごせたことは大きな収穫でした。このような恵みを与えられたことに大変感謝しております。これからもこの様な機会を持てることを期待します。私ごとで大変恐縮ですが、ただ一つ心残りだったのはこの納涼船内に発声練習の場が無かったことです。(文責 伊藤 仁信)

## フィヨルド・ノルウェーの旅 I

澁谷洋太郎

20 数年前より行きたいと願っていたノルウェーへ行けることになりました。第 70 回ノルウェー・スタバングル国際大会です。大阪のトラベル・5の企画に申込をしました。この組には成瀬理事、浅岡直前理事、神谷、望月、東海の野村夫妻等常連が名を連ね 31 名のグループです。他には吉本夫妻、加茂、杉浦・山田夫妻等、高橋グループ。さらにグランパスの吉田一誠夫妻も単独行。そして同じフランクフルト経由で西日本区からと東日本区合わせて 115 名が参加しました。出発直前に山谷澄メンの訃報があり、連絡が不十分のまま日本を発たねばならず、迷惑をかけたようで残念に思っております。

関西空港—フランクフルト 12 時間、フランクフルト—スタバングル 2 時間合計 14 時間  
日本時間 9 時 40 分発、時差 7 時間をいれてスタバングル着 0 時、ホテルについたのが 1 時半の強行軍でした。

### 8月2日(木)

朝のバイキングでのサーモンの美味しいこと、ノルウ

ェーに来たぞーでした。

ただし、美味しかったのはサーモンだけで、ごはんはなし、じゃがいもがごはんがわり、味付けも大味で美味いとはいえない食事でした。

それでも出てくる量が多いせいか二人とも体重が2キロプラス。旅太りでした。

### 8月3日(金)

スタバングルはノルウェーフィヨルド観光の拠点の一つで、北海油田の産油の拠点でもあり大変活気のある町です。石油博物館があります。

「教会の説教壇」という異名をとるリーセフィルドにある最大の見せ場であるプレーケストレン(高さ 604 メートル)。どの観光パンフレットも表紙写真であり、600mの高所にありながら柵がない。日本では考えられないその岩柱を、水面から仰ぎ見てそのスケールに圧倒されました。あれかいなど見上げていたら吉田さんが「澁谷さんあの岩だよ」と教えてくれました。今度の旅行のハイライトのNo.1です。観光船で3時間の乗船でした。

交通についてはバスの便が良いようです。朝5時頃から走っていて、お客が少ないにもかかわらず元気が良いです。車は多くはありませんが、タクシーは結構活躍しておりました。ホテル—会場はほとんどタクシーでした。タクシーとして日本車が多くトヨタ・プリウス、ニッサン、三菱、マツダ、ホンダ、ベンツでマニュアルが多いようでした。

この日の夕食はスタバングルのクラブメンバーの自宅に招待されました。80歳のメンはマツダ車でマニュアル車を颯爽と運転しており、エアコンは三菱、オーディオはパナソニックと日本びいきでした。会話に入るためにはスピークイングリッシュでないといけません。ジャパニーズ・オンリーを卒業できません。(二人とも)

第2報は次号で

## ~~~~~ お知らせ ~~~~~

### ☆お待たせしました！ ワイズの新ジャガ注文受付

今年もワイズのおいしいジャガイモの注文を受け付けます。

申込期日 9月11日(木)まで

申込先 幸正会長まで

(Mail・Fax・Tel いづれにても可)

販売価格 じゃがいも(農林31号) ¥1700/箱

かぼちゃ ¥2500/箱

入荷日 10月13日(土) 時間未定

### ☆びわこ部会

8月25日(土)に開催されたびわこ部会に伊藤メ、数澤メ、幸正メ、澁谷メが参加しました。

### ☆中部部会

8月26日(日)に開催された中部部会に伊藤メ、数澤メ・メネット、幸正メ、澁谷メが参加しました。

### ☆中西部部会

日時：9月15日(土)  
場所：ホテルグランヴィア大阪  
参加予定：澁谷洋太郎メ

### ☆阪和部部会

日時：9月22日(土・祝)  
場所：たかつガーデン(大阪)

## ~~~~~ YMCAのお知らせ ~~~~~

### ☆早天祈祷会

日時 2012年 10月1日(月) 6:00~7:00  
場所 金沢YMCA集会室

Happy Birthday

今月は該当者ありません。

### 山谷澄君 7月31日ご逝去

1931年3月9日 富山市にて生まれる。

1949年6月5日受洗

1961年3月21日 旧姓 越村明代と結婚。

2012年7月31日 腸閉塞により逝去(享年81歳)

中部書記1期、クラブ会長5期、副会長3期、書記7期、各事業担当12期を務め、永年クラブのために尽くしてきた功績に対し功労会員として承認。2011-2012は体調不良のため、例会には出席できない状態でした。

財団法人日本 YMCA 同盟より青少年奉仕賞並びに50年継続会員賞を受領している。

### 10月の担当

ブリテン執筆： 高口 昇君  
澁谷 節子さん

卓話担当： 澁谷洋太郎君

原稿は9月25日までに山内までお願いします。

## ~~~~~ ✕ ネット報 ~~~~~

### 山谷メンを偲んで

訃報に接したのは、7月31日数澤メネットとパン教室で講習を受けている時でした。数澤メネットの携帯が鳴り、席を外し戻って来られたメネットから「山谷さんが亡くなられた」と一言……。まもなく私の携帯にも教会の方からお知らせが入りました。驚きのあまり頭がぼうーとしてしまい、それからは昨年7月入院前日あの猛暑、酷暑と言われる中、牧師先生を探して私達教会婦人会が奉仕作業をしている集会所へ自転車であられた事から、今年7月22日最後となった主日礼拝で教会へ来られた時の事が次々と思い出されました。

山谷メンとは妹さんと職場で数年ご一緒した事や、干支が一緒に丁度一回り違う事、洗礼を受けたのが昭和24年と36年と違いますが、共に6月4日のペンテコステ礼拝であった事等、共通点が多くありそれらの事で話が弾みました。特に受洗日がペンテコステである事は私にとって嬉しい事でした。同期生がクリスマスやイースターに受洗する中、その頃の私は何故ペンテコステだったのだろうと不満さえ思えたのです。

5ヶ月の入院生活、それから更に数ヶ月の自宅療養を経て再び教会に顔を出された山谷メンを私は帽子をとられるまで、十数キロ痩せられたお体から「どな

たかしら?・・・」と思う程でした。しかし、お顔はあの細い目をさらに細くされてにっこり・・・、「わあ～山谷さん出て来られるようになって良かった～」と叫んでしまいました。

約一年近く、礼拝堂のいつも山谷さんが座られる椅子が空席であった事は寂しい事でした。教会に出られるようになってから季節は夏となり、しかも今年の暑さは健康な者にとっても大変でした。7月22日その日礼拝が終わると照りつける太陽が肌に痛く感じられる程でした。バスで帰るとおっしゃる山谷さんを幸正メンが送ってくださる事になりほっとしました。一段と痩せられたように見え、「又来週、体力がつくように祈っているから・・・」と言う私に「ほうか、祈っていてくれるか・・・。」この瞬間を今も忘れられません。駐車場で手を振り別れました。

後日山谷メネットから「教会から戻ったお父さんが今日のっこちゃんと話したと嬉しそうに言っていた」と伺い、あの日のあの目、あの声が思い出されます。天に帰られました山谷メンの御霊を神さまのみ手に委ね、安らぎをお与えくださいと祈りつつ・・・。

(高口 紀子 記)